

登録コード	HM190700	開講年度	2026				
授業題目	腫瘍学研究方法特論					担当教員	牧島 秀樹 他
英文授業名	Advanced Methods in Medical Oncology					副担当	神田 慎太郎・小岩井 慶一郎・平塚 佐千枝・田中 聡・上原 剛
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室				授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加						
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				腫瘍学における化学療法、放射線治療および緩和における標準的な診療内容を理解取得し、実践できるようになる。		
	【専攻】医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力				腫瘍学の基礎研究での新知見を見出す視点と臨床研究では新たな診断法や治療法の発掘への視点を養い、自分で研究テーマを述べられるようになる。		
(2)詳細/Detailed information	臨床腫瘍学に関して、基礎的および臨床的知識を学び、いかなるところに研究視点があるのか、どんな研究テーマがあるのかを学ぶ。それぞれの研究テーマに対して、その目的の設定と、研究手法にはどんな手法があるのかを学び、実際の研究テーマを自ら提案できるようにする。						
(3)授業の概要/Overview of course	本講義では、がんの病理学的な基本知識、がん転移のメカニズムの基礎知識、がん疫学情報の現状とがん登録の手法、がん薬物療法の基本的な知識の習得を行う。 標準的治療が確立されるまでの臨床試験の流れ、さらに新たなより良い標準治療の確立するための臨床試験の立案の方法を学ぶ。 緩和領域で用いられる薬物療法の基礎知識を習得し、がん性疼痛のメカニズムと新たな薬物の実験的検証方法について学ぶ。 放射線治療の一般的な治療効果と照射方法を学び、新たな精度向上を目指した照射方法について学び、より治療成績向上のための臨床試験の立案方法を学ぶ。						
(4)授業計画/Course plan	8月31日（神田） がん薬物療法の臨床試験による確立の流れ 9月 1日（上原） C-4-6) 病因と病態：腫瘍 E-3-1) 腫瘍：定義・病態 E-3-2) 腫瘍：診断 がんの基礎および臨床病理について概説し、基礎的研究の実際を学ぶ 9月 2日（平塚） C-4病因と病態 C-4-6腫瘍、E-3定義と病態 がんの生物学的特徴と転移について学び、研究課題と視点を学ぶ 9月 7日（田中） 緩和ケア一般論およびがん疼痛のメカニズムと薬物効果の評価について 9月 9日（小岩井） F-2-5)放射線等を用いる診断と治療 特に放射線治療一般と、精度向上を目指した照射方法とその意義確立を目指した臨床研究の立案 9月10日（神田） A-8-1) 医学研究への志向の涵養 がんの疫学データを用いた研究、がんゲノム医療の実際から今後のがん医療の流れを学ぶ 9月11日（牧島） がんゲノムに関する研究の方法と結果の解釈 9月14日 【レポート提出】提出期限は、9月17日締め切り 以上により基礎的知識の習得と新たな研究テーマの発掘を目指す						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	レポートの提出およびその内容で評価する レポートの内容は、講義で学んだ内容に対して興味をひかれたまたは疑問に感じたことを研究するにはどうしたいかをレポートにまとめること。 レポートは600 - 800字以内にまとめること。 実際大学院生として自分に課せられた研究テーマである必要はなし。以下(i)-(iii)の必須項目の記載を含むこと。 (i)自分なりに立案したい研究テーマに関して、(ii) その研究の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような手法を選択するかの内容を含めるレポートを作成すること。 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。「かなり上にある（優）」。「やや上にある（良）」。「水準にある(可)」。「水準に達しない、必須項目を含まない、レポート未提出（不可）」。						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	本講義は、それぞれの領域の基礎的な知識を習得することと、その後の自分の研究テーマの立案や研究遂行に必要な知識や技法について学ぶことを目的としている。疑問を持つこと、解決する方法を模索する視点を持てるようにすること。						

(7)質問,相談への 対応/Questions and requests for advice	随時質問は受ける。授業中、授業直後あるいは、教室への来室でも対応可能である。来室の場合には、原則事前にアポをとること。
(8)授業の形式 /Course format	PCを用いて講義形式で行う。 対面授業とZoomによるオンライン授業のハイブリッド形式で行う。接続情報等の詳細についてはeALPSに掲載する。